

JANOG42 に参加して

芝浦工業大学 大学院理工学研究科 電気電子情報工学専攻
佐藤隼人

2018年7月19日

1 全体的な感想

JANOG41 に引き続き、今回で2回目の JANOG 参加でした。前回とは異なり、若者支援プログラム(以下、若者支援)を利用したため同じく若者支援で参加した方を始め、若者支援の運営委員の方や JANOG スタッフなど多くの方々とコミュニケーションを取ることができました。若者支援で参加した方とは特に初日の懇親会で交流をしたのですが、自分と同じくらいの年にも関わらず、外部のイベント等を通し様々な知見を得ている方が多いことに驚きました。また、6月中旬に幕張メッセで会場のネットワーク構築のお手伝いをしたのですが、その時一緒にいた方々も JANOG に参加しており、同じく色々なお話を聞けたと共に業界の狭さを実感しました。発表プログラムでは所々不明点がありましたが、面識がある方々に尋ねることができたのでとても充実したと感じています。機会がありましたら次回も参加したいと思います。

2 印象に残ったプログラムとその感想

印象に残っているプログラムは2つあります。1つ目は「短期間で開催される大会/イベントにおけるバックボーン構築について」です。若者支援で参加している方が登壇していることと、発表内容が分かりやすかったため印象に残っています。質疑応答の際に、登壇者の中川さんが「今どき 2.4GHz は必要なのか？ひと昔前なら 5GHz に対応していない機種もあったが今は違うのでは？」という質問に対して、「5GHz だけでいいと思います」という回答をされていた方がいました。こういった現場の意見を聞くことができるのが JANOG の良さだと感じると共に、他にもチームビルディングや新規の人を受け入れやすくする方法などが活発に議論されており、とても有意義な時間でした。

2つ目は「つぶらな瞳で総務省-障害の情報提供制度について」です。その中でも、IIJ の松崎さんと総務省の高村さんが議論していたセクションが刺激的でした。去年の8月に起きた大規模経路障害の概要については JANOG41 を始め様々な場所でも議論がされていましたが、JANOG42 では総務省の方が登壇されていました。総務省が当時どのような対応をしていたのか、総務省の人間は経路障害についてどう考えていたのか等、普段の環境では聞くことができない意見ばかりで貴重な機会でした。

3 今後やりたいことなど

BGP の運用に携わりたいと考えています。きっかけは去年の大規模経路障害発生時で、詳細を調べる中で概要はつかめましたが、運用経験はなかったため、障害を実感できなかったためです。個人的にカンファレン

スネットワーク等の規模が大きいネットワーク設営や構築にも興味があるため、今後はそれらの参加を通じて、色々な方と交流を深め BGP の運用に携われるチャンスを得られたらと考えています。

4 その他

JANOG42 では若者支援を利用し、参加しました。若者支援は費用を負担してくれるだけではなく、若者支援で参加した方同士での交友関係も築け、また 2 日目の懇親会では自己紹介の機会を頂けるなど様々なメリットがありました。しかしながら、若者支援はあまり知られていないようにも感じます。現に実費で参加した学生の間では直前になって存在を知り、申し込みができなかった等の意見がありました。若者支援を利用せずとも出席していた学生もいましたが、中には若者支援の存在自体知らないまま金銭的な問題で参加できなかった若い方もいると思います。そのため、若者支援を利用すれば費用を工面することが難しい方でも手軽に参加することができることをもう少し広報できれば、より一層良くなると思いました。